

受賞団体の概要

【東北地域に根ざした食育活動分野】

○東北農政局長賞

団体名：i n e いわき農商工連携の会（福島県いわき市）

活動名：i n e いわき農商工連携の会は、いわき市・県内の農商工連携により「いーね」体験を届けます

活動概要

地元産にこだわる農家を中心に2010年12月に発足しました。震災直後は、除染ボランティアにとれたて野菜を使った食事を提供しました。2012年に入り農業体験バスツアーの受入れをはじめ、地元野菜の収穫や料理提供を中心としたバスツアーを旬にこだわりながら継続して実施しています。また、旬野菜などを使ったドレッシングなどの開発や栄養士と連携した料理教室、アレルギー体質の子どもを持つ保護者の団体と連携した農業体験イベント・メニューづくり、栄養面を考慮したランチの提案など新たな連携、企画に順次取り組んでいます。

農商工8人のメンバーの連携が良く、農業体験ツアーなどの参加者や取組回数もかなり多いこと、農、商、工さらには栄養士も含めた人の連携により色々な企画、取組が行われていることが評価されました。

○食育活動表彰審査部会長賞

団体名：仙北市立神代小学校（秋田県仙北市）

活動名：神代キラリ☆ワクワク♪プロジェクト

活動概要

神代小学校の3、5、6年生は、畑の提供、加工の指導、販売機会の提供など地域住民から支援を受けながら、イブリガッコづくりを中心とした生産、加工、販売、収入、貯蓄の一連の体験を行います。色付け用ベニバナの植付け、大根の栽培、収穫、燻製、漬け込み、真空パック詰めを行い、地元スーパーや修学旅行で訪れる八戸市で販売体験をしています。6年生は、卒業時に活動の収益金を給料袋で受け取ります。この他、「田んぼアート」の田植えと収穫に参加する地域貢献活動、秋の産業祭に出店し学校農園で栽培した作物等の販売を行っています。

伝統のイブリガッコを主題として、地域住民の支援を受けながら、生産から加工、販売までの食育活動となっていることや卒業時に給料袋を渡す特徴的な取組が評価されました。

団体名：屋代村塾（山形県東置賜郡高島町）

活動名：大学生の農家体験、農楽校、寺子屋講座

活動概要

屋代村塾は、早稲田大学の故大塚勝夫教授が平成6年に私財を投入して、セミナーハウスを新設し立ち上げました。平成10年に同大学の堀口健治名誉教授が塾長を引き継がれ、地元塾生農家と共に、関東、関西の大学生の農家体験を受け入れ、その人数はこれまでの20年間に1,500人を超えています。特徴的な内容は、3泊4日程度の日程で農家に宿泊して農作業を体験し、最終日には交流会が行われます。また、塾生の地元農家が大学に出向いて、国際交流イベントで餅つきを受け持つなど継続した相互交流が持たれています。

20年間の長期に亘り継続し、大学生と地域住民が刺激し合い良好な関係が築かれていること、農業を職業として選択する、居住地として農村を選ぶことにつながるのではないかと期待させる活動であることが評価されました。

【「食と農で紡ごう！笑顔」分野】

○東北農政局長賞

団体名：岩手県立高田病院（岩手県陸前高田市）

笑顔のプロフィール

仮設住宅の近くに作った農園で被災者が土に触れ、生きがいと健康そして笑顔を取り戻しました！



農園に通うことで足腰も丈夫になった
と言う85歳のおばあちゃん



農園の一区画を保育所へ開放し、園児の
植え付けと収穫で世代間交流



病院の健康講演後、農園の野菜で作った料
理をつまみに和やかな懇談

活動概要

高田病院は、仮設住宅入居者の健康状態の悪化や抑うつ状態などの生活不活発病の予防を目的に、病院が農園を準備する「はまらっせん農園」プロジェクトを平成24年5月に開始しました。農園は収穫の場として、また、社交場としても機能し、仮設住宅入居者の骨密度や生きがいを改善させました。また、入居者が仮設住宅を出るときに心身が不健康にならぬよう、病院が応援しています。

震災で大きな被害を受けた病院が患者の対応だけでも大変な中で、新たな取組をはじめたこと、多くの世代の笑顔が見られること、人と食とのつながりが感じられることが評価されました。

○食育活動表彰審査部会長賞

団体名：特定非営利活動法人復興支援奥州ネット（岩手県奥州市）

笑顔のプロフィール

被災者のための協働農場で収穫した野菜で収穫祭を行い、内陸避難地域の児童たちと触れ合った時の笑顔です。



ほらジャガイモがこんなに！これからカレーを作って食べるんだ！



内陸避難者の方も子供たちに食べてもらう野菜をこんなに収穫！



この畑でとれた野菜いっぱいのカレー。俺お替わり3杯した！

活動概要

復興支援奥州ネットは、東日本大震災で家も畑も失った被災者がいきいきと農作業ができるようにと、平成24年から岩手県奥州市前沢区にある50アールの畑を利用し、被災者とともに十数種類の野菜を作り始めました。夏の収穫祭には地元の子どもたちも手伝い、収穫した野菜をその場で使いカレーを作り一緒に収穫を喜んでいます。

おばあちゃんの笑顔が良いこと、避難者の方たちが元気をもらっていると感じられること、野菜づくりをベースに地域の人から子どもたちをまき込んだ農業を知る良い活動であることが評価されました。

○食育活動表彰審査部会長賞

団体名：喜多方市立豊川小学校（福島県喜多方市）

笑顔のプロフィール

春に植え、水やりや草むしりなどで面倒をみてきたさつまいもが大きく育ち、大喜びで収穫する子どもたち



地域の方の指導を受けながら子どもたちがいもの苗を植えました



いよいよ収穫。夢中になっていも掘りに取り組む子どもたち



苦勞してやっと手にした大きないもに満面の笑みの子どもたち

活動概要

豊川小学校は、喜多方市が推進する小学校農業科に平成21年度から取り組み、豊かな情操やふるさとを誇りに思う心を育てています。原発事故後も、きめ細かい放射性物質のモニタリングと保護者や地域の理解により農業科が継続できています。今後もみんなで収穫の喜びを味わいながら、食農教育に取り組んでいきます。

地域の人との交流が見てとれること、子どもたちの笑顔が生き生きとして収穫の喜びが感じられることが評価されました。